

建設業の担い手不足が問題となっていますが、例に漏れず我が社も30代後半～40代前半の社員が少なく「若手の技術力不足」「技術継承が課題」です。

建設業界では一時採用が控えられ、どこの組織でも上記の世代がぽっかり空いてしまっているようですが、近年は若手を積極的に採用しているところも多いと聞いています。ということは、技術を継承されたい若手は多いはず。

技術継承はこの連載でも数回話題に出っていますが、若手側から発信されたものはあまり見たことはありません。技術を継承される側だって早くバリバリ仕事をこなせるようになりたい。といっても経験知も重要で、すぐに仕事ができるようにはならない。そんな風に考えている若手も多いのではないのでしょうか？

私は入社8年目、まだまだひよっこ技術者ですが、知らぬ間に中堅社員となり、ぽっかり空いた穴を埋めるような、橋渡し的な存在にならなくてはならないことに気づきました。

そこで、建設業界ではまだまだ半人前ですが、私が新人の時に「早く仕事を覚えよう！」と思い実践していたことを記載してみます。若手の方の参考になれば幸いです。

1. 憧れの先輩を真似る

憧れの先輩を真似しましょう。私が新人の頃、上司が見ていることを観察して、作る資料、話す言葉のチョイスなどなんでも真似していました。現場では、上司の一挙一動を観察しすぎ、現場を見ていないと怒られました。でも、上司と着目点が一緒だと

一歩先に進めた気がしました。

2. 自分の足で立つ

分からないことを質問しながら仕事を進めると思っています。理路整然な上司の回答を聞くとなんだかわかった気になりますが、そこで一度ストップ！自分の言葉で説明できますか？「〇〇さんが言っていたから」にならないように自分の足で立てているか時々確認が必要です。また、アドバイスをたくさんもらおうと、何故そちらの方に舵を切ったのか、決断根拠が不明瞭になりがちです。振り返りも大切です。

3. 資格を取る

資格の勉強をすると、点で覚えていた知識が線につながります。自分が会得した知識の復習にもなります。資格を取得できれば自信や周囲からの評価にも繋がります。ただし、資格を取っても仕事ができるようになるとは限りませんので注意が必要です。技術士を取られた際には、ぜひ技術士会岩手県支部へ顔を出してくださいね。お待ちしております。

当時の上司は「自分と同じ失敗はさせない、最短ルートを教える」と言っていました。私は随分上司の想定ルートから外れて失敗し、助けってもらっていました。そろそろ、当時の上司と同じ年になります。その上司と同じくらい仕事ができているのか、自問自答の日々です。技術を会得して、よりよい仕事ができるように精進したいと思います。諸先輩方におかれましては、さらなる技術継承のほど、よろしく願いいたします。若手のみなさん、一緒に頑張りましょう！